

折に触れ 四字熟語

NO. 104 『舐犢之愛』 しとくの あい

< 意味 > 親が子を溺愛すること。親牛が子牛をなめて愛することからいう。

< 出典 > 「後漢書」<楊彪伝>

「四年、復拜太常、十年免、十一年、諸以恩澤爲侯者皆奪封、彪見漢祚將終、遂稱脚攣不復行、積十年、後子修爲曹操所殺、操見彪問曰、公何瘦之甚、對曰、愧無日磾先見之明、猶懷老牛舐犢之愛、操爲之改容」

読み下し：『四年（一九九）、復た太常を拜し、十年（二〇五）、免ぜらる。十一年（二〇六）、諸々の恩沢を以て侯と爲る者皆な封を奪わる。彪、漢祚の將に終らんとするを見て、遂に脚攣と稱して復た行かざること十年を積ぬ。後に子の修、曹操の殺す所と爲る。操、彪を見て問いて曰わく、「公何ぞ瘦せたることの甚しきや」。對えて曰わく、「愧ずらくは日磾の先見の明無く、猶お老牛の犢を舐めるの愛を懷く」。操之が爲に容を改む。』

語 釈：「舐」はなめる意。「犢」は子牛、牛の子。「諸々の恩沢」は天子の私的な恩寵。「日磾の先見の明」は漢の金日磾という人物が、自分の子二人の墮落ぶりを見て自らの手で殺したことを指す。「先見の明」はここから引用された語です。

参考文献に通釈が付いていないので分かりにくいですが、該当の言葉の意味は理解できると思います。

一言：出典は私が調べた限りでは、「後漢書」の『楊震列伝四十四<曾孫 彪>』によります。千葉県野田市の小学4年生の女子が親の虐待で死亡した事件は、親としてはにわかに信じがたいニュースです。文科省はこれを受けて学校や児童相談所に積極的な対応を求める検討に入った、とありますから、同様の実態が数多くあるということなのでしょう。牛にも劣る人間の親がいるとはおぞましいことだと思います。

参考文献：岩波書店「後漢書」第七冊 岩波書店「四字熟語辞典」 三省堂「四字熟語辞典」